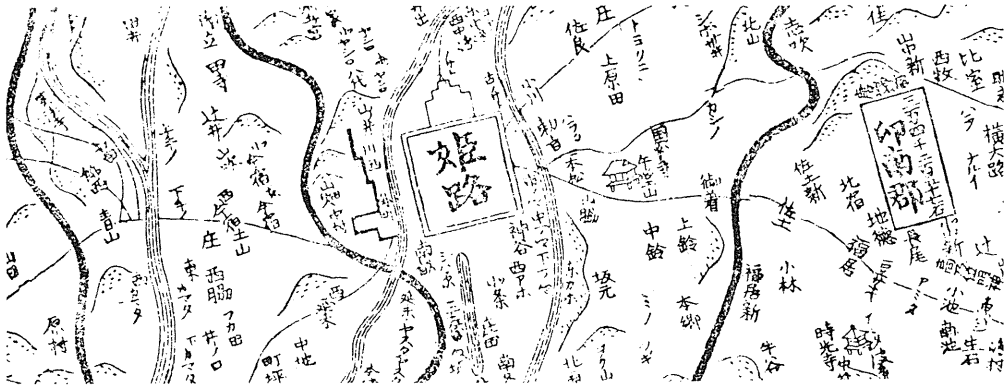




『山陽道』をたずねて



播磨国細見図(部分図)
寛延二年大阪心齋橋の書店が発行したものの、街道が記してある。今の別所は当時福居といった。

山陽道 西国街道・中国路とも呼ばれ江戸時代の主要街道のひとつで、五街道以外の脇街道ではあったが、重要性の高いものであった。街道が城下を通過していたので姫路は宿場町として、参勤交代の大名や旅人の通行・宿泊の場所として賑わった。明治以後は鉄道や国道2号線が通じ、昔の街道筋は忘れられようとしている。今、昔の街道を東から西へたどりつつ道路沿いの文化財を訪ねてみよう。見学シリーズ①②も参照してください。

山陽道のルート 高砂市阿弥陀町豆崎より姫路市別所町に入り、北宿・別所と国道の北側を通り、佐土・御着では国道の南へ、更に山陽線の南へ進み西御着・山脇・一本松に出て、国道の北で市川を渡り京町・大善町・橋元新町などを通り外京口門跡に達する。姫路城下は平野町・二階町などをへて福中門に抜ける。ここより北上し龍野町を西に進んで車崎に出る。更に国道の北を平行して下手野に達し夢前川を渡り青山の街村をぬけ、国道の南へ移り、山田峠で太子町に続く。

地藏堂 別所町小林的東端、地藏堂に寛保4年(1744)の銘の台座に地藏がまつられ、堂脇に縄掛突起を残した石棺の一部とみられる石がある。豆崎地藏堂のものとは一対と思われる。

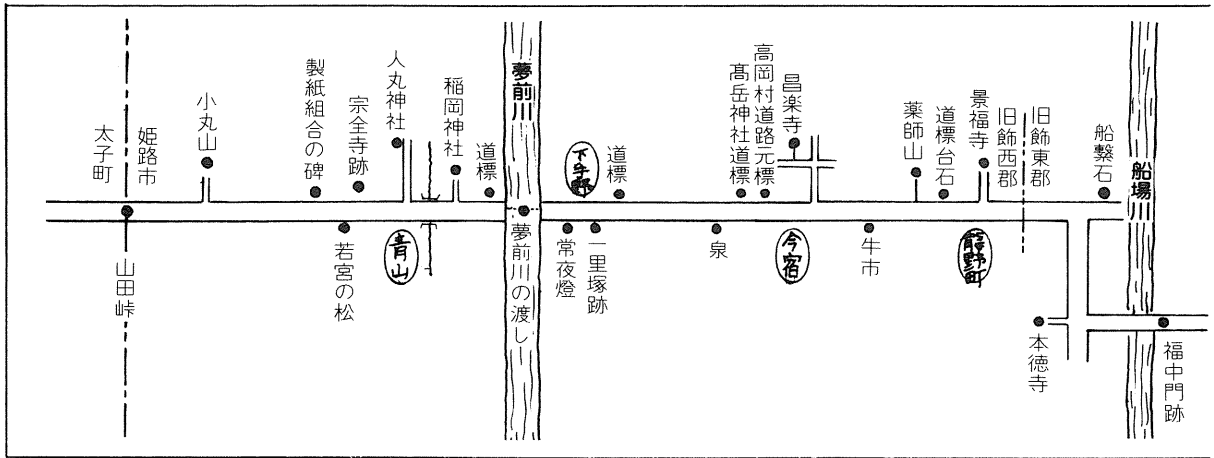
仏心寺 小林的の仏心寺本堂裏に高さ1.6m、四方に梵字のある五輪塔があり、鎌倉時代の作で形が美しい。県指定文化財。本堂の脇には付近から出土した石棺がおかれている。

六騎塚 「太平記」に建武3年(1336)児島高德の父範長が赤松軍に破れ、最後の六騎になり自害したとあり、その場所がここであるという。もとは右の絵のような墓であったが、嘉永3年(1850)現在のものに造りかえた。

真禅寺 北宿北方の山麓にあり、文永2年(1265)のものなど2個の石棺仏がある。



六騎塚(播磨名所巡覧図絵より)



御着城跡出土の一石五輪塔



地藏院の石棺仏



新茶屋，龍萬の建物

弁慶地蔵 別所の西端に地蔵堂があり、弁慶地蔵とか子授かり地蔵とか呼ばれ、弁慶と庄屋の娘が地蔵堂で一夜の契りを結び子を授ったという言い伝えがある。地蔵はもと佐土村との境の田にあったものを今の地に移した。

延命寺 門前に明治18年天皇山陽道巡幸小休所の碑があり、境内に貞和元年（1345）の板碑がある。

大歳神社 御着延命寺の西隣り、拝殿に神話時代から太平洋戦争までの物語や事件を描いた絵馬が数多くある。

御着城跡 国道の北側で発掘調査が進み、建物遺構や土塁・水門などが見つかった。

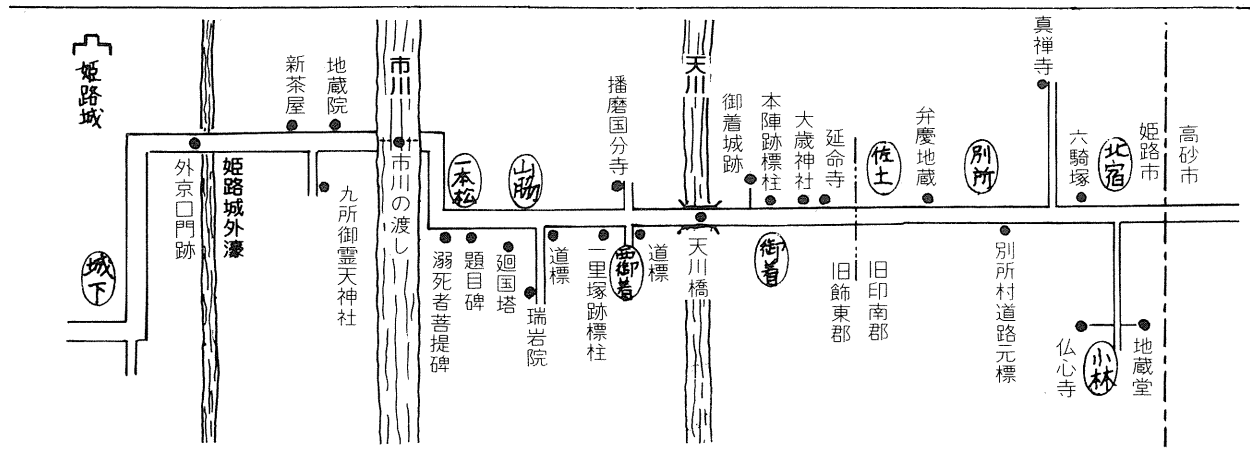
天川橋 以前街道には美しい石橋がかかっていたが、昭和47年大水で破損、現在はコンクリート橋になっている。石橋は御着城跡に復原されている。

瑞岩院 山脇バス停南方の黄檗宗瑞岩院前庭に、姫路の大仏、と言える大きな石仏がある。台座に延享元年（1744）の銘がある。

廻国塔・題目碑・菩提碑 山脇から一本松にかけての山すそに明和4年（1767）の廻国塔や明和8年（1771）の日蓮宗の題目碑と、寛延2年（1749）の大水の水死者をとむらった碑がある。

地藏院 京町二丁目、曹洞宗の寺で墓地に、生国上州、と書かれた酒井家の家臣の墓が並び、石棺仏や大型の五輪塔なども納められている。また前庭には、もと仁寿山校白鹿洞の碑であったという石碑がある。

新茶屋 姫路城下に近づいた山陽道は、橋元新町から街道筋の町並みに入ったようで、参勤交代の行列も町の広場で隊列をととのえ城下に入ったであろう。この町に新茶屋と呼ぶ料理旅館があり、南側を「若松屋」北側を「龍萬」といった。龍萬の建物は現存している。



そときよくち

外京口門跡 外濠の名残りの流れと古い石垣の一部が残るが、明治になって教育伝習所の敷地となって昔の門はとりこわされた。伝習所のあとは城東小学校・姫路中学校・姫路高等女学校と移り変わり、今東光中学校になっている。

姫路城下 次のものが記録に残っている。

「本陣」大名の宿舎、土地の富豪の家があてられた。国府寺家など。

「脇本陣」予備の宿舎。家老などの宿舎。西二階町の那波屋など。

「御関札」総社門と船場川筋とに「某守殿御泊、などの札が出た。

「伝馬所」「人足間屋」馬・かご・人足を置き、公用または旅人の求めに応じて人や荷物を運んだ。伝馬所は福中町、人足間屋は俵町にあった。

福中門跡 現在、遺構は全くない。明治以降、城南小学校の用地となったことがある。

船繋ぎ石 車門前の龍野町に江戸時代「せんぎき屋、という豪商があった。今、その跡地の久保氏宅には、もと船場川畔にあって船を繋いだ石だという巨石が庭石としておかれている。

龍野町の町並 戦災をまぬがれ江戸時代の商家が残る古い街道筋。

景福寺 曹洞宗の寺。坂田町にあったが酒井忠恭の時現在の所に移った。酒井家側室の墓や裏山に藩主松平明矩の墓もある。

薬師山 龍野町5丁目に「表忠碑道」という道標がある。山上に、もと姫路藩勤王の志士の墓碑や西南の役戦没者の碑があったが、琴陵中学建設の時、船場本徳寺境内に移された。

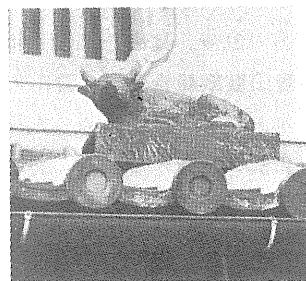
牛市 戦前に神子岡のふもと、今宿の街道南側に牛市場があった。戦後取引所は北側に移ったが、10年程前廃止された。当時の姿をしのばせるものに、屋根上におかれた牛形の瓦のほか牛を繋いだ鉄棒や牛舎の一部が残っている。

昌楽寺 巨智延昌建立の寺といわれ、花山法皇の二度の来訪や後醍醐天皇が隠岐へ流された時、この寺でとまられたとされている。

高岳神社道標 「式内高岳神社・北在五丁・庚午閏十月・姫路藩庁」の文字が記された明治3年の道標と昭和7年のものがあり、北方にハマグリ岩の伝説をもつ岩山のある高岳神社がある。



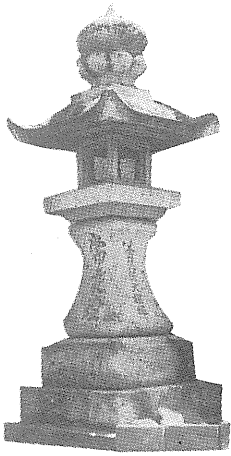
船繋ぎ石



牛瓦



高岳神社への道標



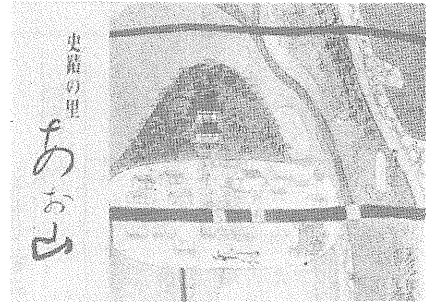
下手野の常夜燈

下手野 ^{ゆめさき} 夢前川東岸の街村状の集落
姫路藩の助成宿場で、御船着置場、
一里番所、川会所などがあり、^{ききょう} 桔梗
屋をはじめ9軒の宿があった。

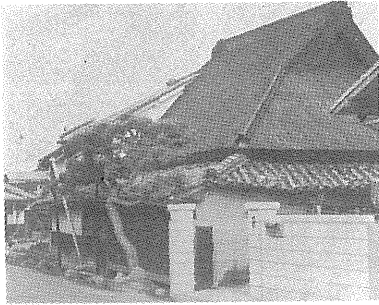
常夜燈 渡し場のあった堤防上に文
政10年(1827)の年号を入れた大き
なもので桔梗屋をはじめ作った人の
名が記されている。

青山の道標 夢前川西岸、山陽道と

^{いなば} 因幡街道が分れる場所にある。五角形の立派な石柱で安政2年(1855)の年号
と「右因州伯州作州雲州往来、左備前九州金毘羅宮鳴往来」など行先と距
離が記され、道標として価値が高い。姫路市指定重要文化財。



青山史跡案内パンフレット(表紙)



青山、若宮の松

^{いなおか} **稲岡神社** ^{いなむれ} 播磨国風土記の稲牟礼の丘に比定され、青山の地名
の起りとなった稲岡山は村の中央にあり、南麓に稲岡神社があ
る。神社の拝殿や絵馬堂には、^{えんばう} 延宝3年(1675)天和2年(1682)
など江戸中期以後の絵馬が数多くある。境内には昭和初めまで
盛んであった「^{てんな} そうめん業、の昔をしのぶ「^{そうめん発祥の地} そうめん発祥の地」
の碑がある。

人丸神社 青山には柿本人麻呂をまつた神社があり、前の地
蔵堂に地蔵と並んで人麻呂の像がある。また稲岡山東麓にあっ
た歌書ヶ淵は人麻呂や和泉式部ゆかりの地と伝えられている。

^{そうぜん} **宗全寺** 街道を西へ進むと北側の民家裏に薬師堂があり、この

地が山名宗全が菩提寺として建てた宗全寺跡だといわれる。宗全は嘉
^{きつ} 吉の乱後、播磨を領有し青山の小丸山に住んだといわれる。

青山製紙組合の碑 青山の西はずれに青山製紙組合の名が記された石碑
がある。これは明治～大正にかけて青山の東の内川と西の谷川に沿って
和紙の製造が盛んで、製紙の創始者で組合の人々の世話をした功のあっ
た米田勝松氏をたたえたもの。

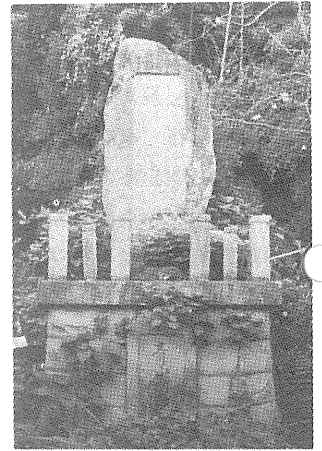
若宮の松 街道沿いに樹令200年という松があり、若宮の松と呼ばれ
ている。

小丸山 現在、県営住宅を建設中の場所の北方に小丸山と呼ぶ丘がある。
宅地造成されたが斜面にはもと群集墳があり、丘上には山名宗全の屋敷
があったという。また永禄12年(1569)に龍野の赤松政秀と姫路の黒田
^{もろたか} 職隆および孝高父子が戦った古戦場といわれる。

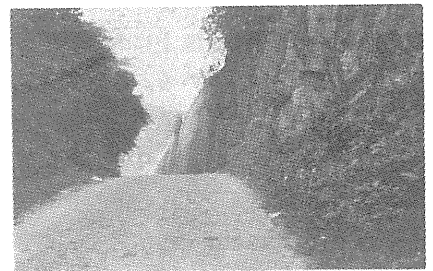
山田峠 (笹峠) 山陽道は国道と分れ、山道となり峠で姫路市から太子
町へ入る。峠上に順海
寺があり、昔の旅人も
この境内から青山を望
み、姫路に別れを告げ
たであろう。



山陽道と国道2号線



青山、製紙組合の碑



山田峠